

令和7年度 徳島市不動中学校総括評価表

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策											
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見												
1 豊かな心を育む人権教育の推進	①目的意識・自尊感情を高める教育活動の推進 ②生徒理解と相談体制の充実 ③一人一人が輝く人権教育の推進	<table border="1"> <tr><th>評価指標</th></tr> <tr> <td>生徒アンケートにおいて ①-1「学校生活は楽しい」90%以上 ①-2「将来の進路や職業について学ぶ機会がある」80%以上 ②「困ったときに相談できる先生がいる」80%以上 ③「いじめや差別がなく周りの友だちを思いやっている」85%以上</td> </tr> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr> <td>①-1学校行事等で、生徒が主体的に活動する場を増やし「できる」「できた」を実感することができる機会をつくる。 ①-2地域でのキャリア教育と、学年に応じた進路学習に取り組む。 ②教職員が積極的に生徒と関わり、関係機関と連携して教育相談体制を整える。 ③人権主事を中心に、全校学習を通して生徒主体の話し合い活動が活発に行われるよう授業構成を工夫する。</td> </tr> </table>	評価指標	生徒アンケートにおいて ①-1「学校生活は楽しい」90%以上 ①-2「将来の進路や職業について学ぶ機会がある」80%以上 ②「困ったときに相談できる先生がいる」80%以上 ③「いじめや差別がなく周りの友だちを思いやっている」85%以上	活動計画	①-1学校行事等で、生徒が主体的に活動する場を増やし「できる」「できた」を実感することができる機会をつくる。 ①-2地域でのキャリア教育と、学年に応じた進路学習に取り組む。 ②教職員が積極的に生徒と関わり、関係機関と連携して教育相談体制を整える。 ③人権主事を中心に、全校学習を通して生徒主体の話し合い活動が活発に行われるよう授業構成を工夫する。	<table border="1"> <tr><th>評価指標の達成度</th></tr> <tr> <td>①-1 100%で目標を達成することができた。(昨年度94%) ①-2 94%で目標を達成することができた。(昨年度78%) ② 100%で目標を達成することができた。(昨年度84%) ③ 100%で目標を達成することができた。(昨年度78%)</td> </tr> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr> <td>① 様々な活動を通じて生徒が達成感や充足感を得られるよう生徒が主体的に活動する場を設定した。 ①-2 高校説明会や外部講師を招いた講習等を実施し、各学年に応じた進路学習を実施した。 ② フィールドの導入や生活アンケート等、生徒の状況把握に努めるとともにスクールカウンセラーと連携し、教育相談体制を整備した。 ③ 全校学習で、自分の思いを伝えたり他者の意見に触れたりする活動を工夫するとともに、これからの生活について考える機会を増やした。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	①-1 100%で目標を達成することができた。(昨年度94%) ①-2 94%で目標を達成することができた。(昨年度78%) ② 100%で目標を達成することができた。(昨年度84%) ③ 100%で目標を達成することができた。(昨年度78%)	活動計画の実施状況	① 様々な活動を通じて生徒が達成感や充足感を得られるよう生徒が主体的に活動する場を設定した。 ①-2 高校説明会や外部講師を招いた講習等を実施し、各学年に応じた進路学習を実施した。 ② フィールドの導入や生活アンケート等、生徒の状況把握に努めるとともにスクールカウンセラーと連携し、教育相談体制を整備した。 ③ 全校学習で、自分の思いを伝えたり他者の意見に触れたりする活動を工夫するとともに、これからの生活について考える機会を増やした。	<table border="1"> <tr><th>総合評定</th></tr> <tr> <td>(評定)  A  (所見) 「学校生活が楽しい」と回答した生徒が年々増えており、今年度は100%を達成することができた。キャリア教育では職場体験など活動の充実を図ったことで、進路や職業についての関心も高まったと推測される。また、生徒が安心して教員に相談できる体制を維持するために、今後も日々の取組を大切にいく必要がある。全校学習では活動を工夫することで、自分事として考えようとしたり他者の意見を傾聴しようとしたりする姿勢が育ちつつある。</td> </tr> </table>	総合評定	(評定)  A  (所見) 「学校生活が楽しい」と回答した生徒が年々増えており、今年度は100%を達成することができた。キャリア教育では職場体験など活動の充実を図ったことで、進路や職業についての関心も高まったと推測される。また、生徒が安心して教員に相談できる体制を維持するために、今後も日々の取組を大切にいく必要がある。全校学習では活動を工夫することで、自分事として考えようとしたり他者の意見を傾聴しようとしたりする姿勢が育ちつつある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校学習や人権学習の年間計画を見直し、総合的な学習も含め、教科等横断的な視点で体系的な取り組みを推進する。</li> <li>・全校学習や生徒会の活動、学校行事や地域行事など、生徒が主体となって活躍する場面を増やし、自尊感情や自己肯定感を高める。</li> <li>・地域や関係機関と連携し、職場体験などの体験的な学習を全学年で展開する。</li> <li>・生徒の状況把握など、教職員間の連絡を密にとり、保護者や関係機関と連携し、安心・安全な学校づくりに努める。</li> </ul>
		評価指標													
		生徒アンケートにおいて ①-1「学校生活は楽しい」90%以上 ①-2「将来の進路や職業について学ぶ機会がある」80%以上 ②「困ったときに相談できる先生がいる」80%以上 ③「いじめや差別がなく周りの友だちを思いやっている」85%以上													
活動計画															
①-1学校行事等で、生徒が主体的に活動する場を増やし「できる」「できた」を実感することができる機会をつくる。 ①-2地域でのキャリア教育と、学年に応じた進路学習に取り組む。 ②教職員が積極的に生徒と関わり、関係機関と連携して教育相談体制を整える。 ③人権主事を中心に、全校学習を通して生徒主体の話し合い活動が活発に行われるよう授業構成を工夫する。															
評価指標の達成度															
①-1 100%で目標を達成することができた。(昨年度94%) ①-2 94%で目標を達成することができた。(昨年度78%) ② 100%で目標を達成することができた。(昨年度84%) ③ 100%で目標を達成することができた。(昨年度78%)															
活動計画の実施状況															
① 様々な活動を通じて生徒が達成感や充足感を得られるよう生徒が主体的に活動する場を設定した。 ①-2 高校説明会や外部講師を招いた講習等を実施し、各学年に応じた進路学習を実施した。 ② フィールドの導入や生活アンケート等、生徒の状況把握に努めるとともにスクールカウンセラーと連携し、教育相談体制を整備した。 ③ 全校学習で、自分の思いを伝えたり他者の意見に触れたりする活動を工夫するとともに、これからの生活について考える機会を増やした。															
総合評定															
(評定)  A  (所見) 「学校生活が楽しい」と回答した生徒が年々増えており、今年度は100%を達成することができた。キャリア教育では職場体験など活動の充実を図ったことで、進路や職業についての関心も高まったと推測される。また、生徒が安心して教員に相談できる体制を維持するために、今後も日々の取組を大切にいく必要がある。全校学習では活動を工夫することで、自分事として考えようとしたり他者の意見を傾聴しようとしたりする姿勢が育ちつつある。															
2 確かな学力の育成	①「わかる授業」の実践 ②基礎的・基本的な知識・技能の定着と家庭学習の定着	<table border="1"> <tr><th>評価指標</th></tr> <tr> <td>生徒アンケートにおいて ①-1「関心や意欲、目標を持って授業に参加している」80%以上  教員アンケートにおいて ①-2「1人1台端末を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行っている」80%以上  生徒アンケートにおいて ②-1「得意な教科がある」「苦手教科の克服に取り組んでいる」80%以上 ②-2「家庭学習の時間をきちんと決めて取り組んでいる」60%以上</td> </tr> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr> <td>①-1めあての提示し、振り返りの場面を設定するとともに一人一台端末の効果的な活用を図る。 ①-2 ICT機器を効果的に活用する等、学習意欲が高まる授業を実践する。 ②-1「朝の学習の時間」を活用し、基礎学力の確実な定着を目指す。 ②-2「家庭学習の手引き」等を活用し、家庭学習の充実が図れるような方法を個に応じて提示する。</td> </tr> </table>	評価指標	生徒アンケートにおいて ①-1「関心や意欲、目標を持って授業に参加している」80%以上  教員アンケートにおいて ①-2「1人1台端末を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行っている」80%以上  生徒アンケートにおいて ②-1「得意な教科がある」「苦手教科の克服に取り組んでいる」80%以上 ②-2「家庭学習の時間をきちんと決めて取り組んでいる」60%以上	活動計画	①-1めあての提示し、振り返りの場面を設定するとともに一人一台端末の効果的な活用を図る。 ①-2 ICT機器を効果的に活用する等、学習意欲が高まる授業を実践する。 ②-1「朝の学習の時間」を活用し、基礎学力の確実な定着を目指す。 ②-2「家庭学習の手引き」等を活用し、家庭学習の充実が図れるような方法を個に応じて提示する。	<table border="1"> <tr><th>評価指標の達成度</th></tr> <tr> <td>①-1 100%で目標を達成することができた。(昨年度72%) ①-2 73%で目標を達成することができなかった。(R7新規項目) ②-1 92%で目標を達成することができた。(昨年度89%) ②-2 82%で目標を達成することができた。(昨年度56%)</td> </tr> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr> <td>①-1 めあての掲示や振り返りの場面設定を意識して取り組むとともに、関心や意欲を持てるよう授業改善に取り組んだ。タブレットも積極的に活用した。 ①-2 研究授業や公開授業では、思考ツールの活用も含め、タブレットの効果的な活用について協議した。 ②-1 期間ごとにテーマを決めて朝学習に取り組んだ。また、各教科で基礎的な学習内容の反復を行い、基礎学力の定着を図った。 ②-2 学級や各教科で家庭学習の状況を確認し、個別に手立てをした。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	①-1 100%で目標を達成することができた。(昨年度72%) ①-2 73%で目標を達成することができなかった。(R7新規項目) ②-1 92%で目標を達成することができた。(昨年度89%) ②-2 82%で目標を達成することができた。(昨年度56%)	活動計画の実施状況	①-1 めあての掲示や振り返りの場面設定を意識して取り組むとともに、関心や意欲を持てるよう授業改善に取り組んだ。タブレットも積極的に活用した。 ①-2 研究授業や公開授業では、思考ツールの活用も含め、タブレットの効果的な活用について協議した。 ②-1 期間ごとにテーマを決めて朝学習に取り組んだ。また、各教科で基礎的な学習内容の反復を行い、基礎学力の定着を図った。 ②-2 学級や各教科で家庭学習の状況を確認し、個別に手立てをした。	<table border="1"> <tr><th>総合評定</th></tr> <tr> <td>(評定)  B  (所見) 授業の構造化や朝学習の工夫により、生徒の学習意欲は概ね向上した結果となったが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善には依然として課題が多いと考えられる。家庭学習では時間を決めて取り組んでいる生徒の割合が多くなったが、一人一台端末の活用も含め、主体的に学習に取り組む態度の涵養に一層取り組む必要がある。</td> </tr> </table>	総合評定	(評定)  B  (所見) 授業の構造化や朝学習の工夫により、生徒の学習意欲は概ね向上した結果となったが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善には依然として課題が多いと考えられる。家庭学習では時間を決めて取り組んでいる生徒の割合が多くなったが、一人一台端末の活用も含め、主体的に学習に取り組む態度の涵養に一層取り組む必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上検討委員会を必要に応じて実施し、本校の課題をふまえて活動を見直し、改善を行う。その一環として、朝学習の内容の定期的な見直しを行う。</li> <li>・一人一台端末の活用について校内研修を実施し、教職員のスキルアップを図る。</li> <li>・小中間の連携を深め、子どもの情報共有を図る必要がある。</li> <li>・保護者も含めて、視野を広げることも必要である。</li> </ul>
		評価指標													
		生徒アンケートにおいて ①-1「関心や意欲、目標を持って授業に参加している」80%以上  教員アンケートにおいて ①-2「1人1台端末を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行っている」80%以上  生徒アンケートにおいて ②-1「得意な教科がある」「苦手教科の克服に取り組んでいる」80%以上 ②-2「家庭学習の時間をきちんと決めて取り組んでいる」60%以上													
活動計画															
①-1めあての提示し、振り返りの場面を設定するとともに一人一台端末の効果的な活用を図る。 ①-2 ICT機器を効果的に活用する等、学習意欲が高まる授業を実践する。 ②-1「朝の学習の時間」を活用し、基礎学力の確実な定着を目指す。 ②-2「家庭学習の手引き」等を活用し、家庭学習の充実が図れるような方法を個に応じて提示する。															
評価指標の達成度															
①-1 100%で目標を達成することができた。(昨年度72%) ①-2 73%で目標を達成することができなかった。(R7新規項目) ②-1 92%で目標を達成することができた。(昨年度89%) ②-2 82%で目標を達成することができた。(昨年度56%)															
活動計画の実施状況															
①-1 めあての掲示や振り返りの場面設定を意識して取り組むとともに、関心や意欲を持てるよう授業改善に取り組んだ。タブレットも積極的に活用した。 ①-2 研究授業や公開授業では、思考ツールの活用も含め、タブレットの効果的な活用について協議した。 ②-1 期間ごとにテーマを決めて朝学習に取り組んだ。また、各教科で基礎的な学習内容の反復を行い、基礎学力の定着を図った。 ②-2 学級や各教科で家庭学習の状況を確認し、個別に手立てをした。															
総合評定															
(評定)  B  (所見) 授業の構造化や朝学習の工夫により、生徒の学習意欲は概ね向上した結果となったが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善には依然として課題が多いと考えられる。家庭学習では時間を決めて取り組んでいる生徒の割合が多くなったが、一人一台端末の活用も含め、主体的に学習に取り組む態度の涵養に一層取り組む必要がある。															
3 家庭・地域との連携	①積極的な情報発信 ②地域の人材と教育力を活用した教育活動の充実	<table border="1"> <tr><th>評価指標</th></tr> <tr> <td>保護者アンケートにおいて ①「ホームページや学年だより、家庭連絡等を通じて学校の様子がよくわかる」100% ②「保護者と学校、地域の連携や協力体制が進んでいる」100%</td> </tr> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr> <td>①ホームページの更新回数を増やしたり、学年便り等をメール配信したりして教育活動の様子を積極的に発信する。 ②不動学園や保護者、地域の方々と連携した取組を推進するとともに、地域行事等に積極的に参加する。</td> </tr> </table>	評価指標	保護者アンケートにおいて ①「ホームページや学年だより、家庭連絡等を通じて学校の様子がよくわかる」100% ②「保護者と学校、地域の連携や協力体制が進んでいる」100%	活動計画	①ホームページの更新回数を増やしたり、学年便り等をメール配信したりして教育活動の様子を積極的に発信する。 ②不動学園や保護者、地域の方々と連携した取組を推進するとともに、地域行事等に積極的に参加する。	<table border="1"> <tr><th>評価指標の達成度</th></tr> <tr> <td>① 88%で目標を達成することができなかった。(昨年度100%) ② 「保護者との連携」81%(昨年度100%) 「地域との連携」88%(昨年度100%)で目標を達成することができなかった。</td> </tr> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr> <td>① 教育活動の様子や学年便り、保健だよりをホームページで定期的に発信した。また、まちこみメールを使用し、必要な情報の発信を行うようにした。 ② 地域行事に教職員が参加し一緒に活動する中で、保護者や地域の願いや思いを知り、学校の様子を伝えることにより連携を図ることに努めた。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	① 88%で目標を達成することができなかった。(昨年度100%) ② 「保護者との連携」81%(昨年度100%) 「地域との連携」88%(昨年度100%)で目標を達成することができなかった。	活動計画の実施状況	① 教育活動の様子や学年便り、保健だよりをホームページで定期的に発信した。また、まちこみメールを使用し、必要な情報の発信を行うようにした。 ② 地域行事に教職員が参加し一緒に活動する中で、保護者や地域の願いや思いを知り、学校の様子を伝えることにより連携を図ることに努めた。	<table border="1"> <tr><th>総合評定</th></tr> <tr> <td>(評定)  B  (所見) 昨年度の水準を維持することを目標としたが、いずれも達成できなかった。ホームページや連絡ツールの活用を見直す必要がある。また、日頃から家庭と連絡を密にとり、保護者との連携を図るとともに、地域行事に積極的に参加して開かれた学校づくりに努める。</td> </tr> </table>	総合評定	(評定)  B  (所見) 昨年度の水準を維持することを目標としたが、いずれも達成できなかった。ホームページや連絡ツールの活用を見直す必要がある。また、日頃から家庭と連絡を密にとり、保護者との連携を図るとともに、地域行事に積極的に参加して開かれた学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と学校がしっかりと連携しなければならない。</li> <li>・不動町ならではの意識の共有を学校や地域で図っていく必要がある。</li> <li>・これまでに不動学園で頑張ってきた先輩の先生方から話を聞く機会を作ってはどうか。</li> </ul>
		評価指標													
		保護者アンケートにおいて ①「ホームページや学年だより、家庭連絡等を通じて学校の様子がよくわかる」100% ②「保護者と学校、地域の連携や協力体制が進んでいる」100%													
活動計画															
①ホームページの更新回数を増やしたり、学年便り等をメール配信したりして教育活動の様子を積極的に発信する。 ②不動学園や保護者、地域の方々と連携した取組を推進するとともに、地域行事等に積極的に参加する。															
評価指標の達成度															
① 88%で目標を達成することができなかった。(昨年度100%) ② 「保護者との連携」81%(昨年度100%) 「地域との連携」88%(昨年度100%)で目標を達成することができなかった。															
活動計画の実施状況															
① 教育活動の様子や学年便り、保健だよりをホームページで定期的に発信した。また、まちこみメールを使用し、必要な情報の発信を行うようにした。 ② 地域行事に教職員が参加し一緒に活動する中で、保護者や地域の願いや思いを知り、学校の様子を伝えることにより連携を図ることに努めた。															
総合評定															
(評定)  B  (所見) 昨年度の水準を維持することを目標としたが、いずれも達成できなかった。ホームページや連絡ツールの活用を見直す必要がある。また、日頃から家庭と連絡を密にとり、保護者との連携を図るとともに、地域行事に積極的に参加して開かれた学校づくりに努める。															
4 教職員のワークライフバランス確立	①業務内容の精選と、教職員の意識改革 ②保護者や地域の理解と協力を得る	<table border="1"> <tr><th>評価指標</th></tr> <tr> <td>教職員アンケートにおいて ①「ワークライフバランスを保ち、やりがいをもち働くことができた」85%以上 ②「学校は、教職員の働き方改革について保護者や地域への情報提供を適切に行っている。」75%以上</td> </tr> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr> <td>①研修の機会や自己研鑽の時間の確保について啓発するとともに、定期的に健康チェックを実施する。 ②ホームページ等で、保護者や地域へ積極的に情報を発信する。</td> </tr> </table>	評価指標	教職員アンケートにおいて ①「ワークライフバランスを保ち、やりがいをもち働くことができた」85%以上 ②「学校は、教職員の働き方改革について保護者や地域への情報提供を適切に行っている。」75%以上	活動計画	①研修の機会や自己研鑽の時間の確保について啓発するとともに、定期的に健康チェックを実施する。 ②ホームページ等で、保護者や地域へ積極的に情報を発信する。	<table border="1"> <tr><th>評価指標の達成度</th></tr> <tr> <td>① 93%で目標を達成することができた。(昨年度100%) ② 86%で目標を達成することができた。(R7新規項目)</td> </tr> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr> <td>① 必要に応じて全教職員で研修に取り組む等、教職員の研修の機会を確保した。また、毎月1回健康チェックを実施し、メンタルヘルスクアを推進した。 ② 働き方改革に関する通知等をマチコミで保護者へ発信するよう努めた。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	① 93%で目標を達成することができた。(昨年度100%) ② 86%で目標を達成することができた。(R7新規項目)	活動計画の実施状況	① 必要に応じて全教職員で研修に取り組む等、教職員の研修の機会を確保した。また、毎月1回健康チェックを実施し、メンタルヘルスクアを推進した。 ② 働き方改革に関する通知等をマチコミで保護者へ発信するよう努めた。	<table border="1"> <tr><th>総合評定</th></tr> <tr> <td>(評定)  B  (所見) 昨年度に引き続き、働き方の改善や職場環境の改善、メンタルヘルスクアの推進に取り組む、高水準を維持することができた。今後も、質の高い教育活動を実践できるよう、またやりがいを感ぜられるよう、職場の環境づくりに努める。</td> </tr> </table>	総合評定	(評定)  B  (所見) 昨年度に引き続き、働き方の改善や職場環境の改善、メンタルヘルスクアの推進に取り組む、高水準を維持することができた。今後も、質の高い教育活動を実践できるよう、またやりがいを感ぜられるよう、職場の環境づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルスクア等に関する校内研修を実施する。</li> <li>・「教職員の働き方」についてホームページや連絡ツールで発信したり、PTA役員会等で説明したりし、機会を捉えて保護者・地域への広報を行う。</li> <li>・各種研修の案内を積極的に行うなど、教職員が自己研鑽に努めるようにする。</li> </ul>
		評価指標													
		教職員アンケートにおいて ①「ワークライフバランスを保ち、やりがいをもち働くことができた」85%以上 ②「学校は、教職員の働き方改革について保護者や地域への情報提供を適切に行っている。」75%以上													
活動計画															
①研修の機会や自己研鑽の時間の確保について啓発するとともに、定期的に健康チェックを実施する。 ②ホームページ等で、保護者や地域へ積極的に情報を発信する。															
評価指標の達成度															
① 93%で目標を達成することができた。(昨年度100%) ② 86%で目標を達成することができた。(R7新規項目)															
活動計画の実施状況															
① 必要に応じて全教職員で研修に取り組む等、教職員の研修の機会を確保した。また、毎月1回健康チェックを実施し、メンタルヘルスクアを推進した。 ② 働き方改革に関する通知等をマチコミで保護者へ発信するよう努めた。															
総合評定															
(評定)  B  (所見) 昨年度に引き続き、働き方の改善や職場環境の改善、メンタルヘルスクアの推進に取り組む、高水準を維持することができた。今後も、質の高い教育活動を実践できるよう、またやりがいを感ぜられるよう、職場の環境づくりに努める。															